



ごあいさつ

横瀬町長 富田能成

本日は、ヨコゼ音楽祭にご来場いただき誠にありがとうございます。

昭和56年8月に始まったヨコゼ音楽祭は、今年で33回目の開催となりました。始まった当初から、音楽を愛するボランティアの皆さんが中心となり、企画・演出・運営を担っていただくスタイルを貫いています。作り手の熱い想いが詰まったこの音楽祭は、今や、わが横瀬町の文化を象徴する催しとなりました。

この音楽祭で発揮されているとおり、私たち横瀬町の強みは、住民の参加意識が高く、しっかりとしたコミュニティがあることです。横瀬町では、今、官民連携プラットフォーム(通称よこらぼ)を立ち上げ、民間活力を積極的に導入してまちづくりに活かしていますが、この先駆的な取り組みができるのも、住民の皆さんの熱い想いや、町全体の一体感があってこそだと考えています。音楽祭の歴史とその活動力は、新しいまちづくりにも受け継がれているのです。音楽は、心の奥底に溶け込んで喜びと励ましを与えてくれます。出演者と観客がひとつとなり、会場全体で充足感を共有できるような素晴らしい音楽祭となることを願っております。結びに、音楽祭開催にあたり、様々ななかたちでご尽力いただきました関係各位とご来場の皆様にお礼を申しあげ私の挨拶とさせていただきます。



実行委員長 中野高道

本日はヨコゼ音楽祭にご来場いただきありがとうございます。スタッフ一同、心より御礼申し上げます。

この音楽祭も、おかげさまで今年33回目を迎えることができました。開催にあたりご協力いただきました皆さまへ厚く御礼申し上げます。

今回も、皆さまへたくさん感動をお届けできるよう、実行委員会では日頃より様々な提案・意見交換を重ねて参りました。今後も皆さまからの変わらぬご愛顧・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

本日は心行くまでコンサートをお楽しみください。



第33回 ヨコゼ音楽祭

The 33rd Yokoze Music Festival

緑と風と男たちが奏でる

美しい音

guest 石田組

名曲
コンサート
2018
8.12

横瀬町町民会館ホール
開場/15:30 開演/16:00



名曲

ISHIDAGUMI

コンサート

program

◆モーツァルト◆

セレナード ト長調K.525「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」

◆グリーグ◆

組曲「ホルベアの時代から」op.40

休憩
(15分)

◆レスピーギ◆

リュートのための古風な舞曲とアリア第3組曲よりシチリアーナ

◆E.バーンスタイン(近藤和明編曲)◆

荒野の7人

◆ピアソラ(近藤和明編曲)◆

リベルタンゴ

※曲目は変更される場合があります。予めご了承ください。

石田泰尚 Yasunao Ishida

ソロ・ヴァイオリン

神奈川県出身。国立音楽大学を首席で卒業、同時に矢田部賞受賞。新星日本交響楽団を経て、2001年より神奈川フィルハーモニー管弦楽団ソロ・コンサートマスターに就任。以来「神奈川フィルの顔」となり現在は、首席ソロ・コンサートマスターとしてその重責を担っている。これまでに神奈川文化賞未来賞、横浜文化賞文化・芸術奨励賞を受賞した。幅広いレパートリーを誇り神奈川フィルや各地のオーケストラと協奏曲の演奏やリサイタルを行いソリストとしての顔も持つ。自身がプロデュースした男性奏者のみの弦楽アンサンブル「石田組」、新しいスタイルのピアソラを追及した「トリオ・リベルタ」、ピアニスト及川浩治の呼びかけで結成されたピアノトリオ「Bee」、CoolなメンバーによるHotなステージの「Super Trio 3°C」など、様々なユニットでも独特の輝きを見せる。結成から20年を越えたYAMATO弦楽四重奏団では唯一無二のヴァイオリニストとしてグループの方向性を決定づけてきた。その豊かな音楽性は「繊細で優美な音楽をさらにきめ細やかに表して、浄化された深い诗情が香り立つ魅惑的な演奏」(音楽の友)など各方面から高く評価されている。録音も多く2016年発売の「石田泰尚/LIVE」、2017年発売の「ALL BRAHMS LIVE」は共にレコード芸術誌上で準特選盤、さらに石田組デビューアルバム「THE石田組」は特選盤の評価を得た。2017年夏に日本テレビ「24時間テレビ愛は地球を救う」の告知CMで亀梨和也と共演し話題となった。2018年9月3日NHK-BSプレミアム「クラシック倶楽部」にて青森県弘前市での石田組公開収録が放送予定。使用楽器は1690年製G.Tononi、1726年製M.Goffriller。

公式サイト <http://musiciansparty.jp/artist/ishida/>

profile

石田組

ヴァイオリニスト石田泰尚の呼びかけにより2014年に結成された弦楽合奏団。レパートリーはバロック音楽から映画音楽、プログレッシブ・ロックまで多岐にわたり各々のスタイルをぶつけ合いながら織り成す演奏スタイルは弦楽アンサンブルの新しい世界を切り拓く存在として各方面から注目される。2017年にリリースされたデビューアルバム「THE石田組」はレコード芸術誌上で特選盤の評価を得た。

塩田 脩 Syu Shioda

1stヴァイオリン

1983年アメリカ合衆国ボストン生まれ。8歳よりジュリアード音楽院プレカレッジに在学。2004年ニューイングランド音楽院を卒業。2006年より小澤征爾音楽塾オーケストラプロジェクト、オペラプロジェクト、サイトウキネン・フェスティバルに出演。各公演にてコンサートマスターを務める。2014年東京都交響楽団に入団。潮田益子、田中直子、シャリー・ギブンスの各氏に師事。

戸原 直 Nao Tohara

1stヴァイオリン

東京藝術大学音楽学部在学中に安宅賞、卒業時にアカンサス音楽賞、同声会賞を受賞。大学院修了時に大学院アカンサス音楽賞を受賞。2012年第17回コンクール・マロニエ21弦楽器部門第1位。2016年にBISQC(Banff International String Quartet Competition)に参加し、Career Development Awardsを獲得。平成26年度青山財団奨励学生。紀尾井シンフォニエッタ東京2015-2016シーズン・メンバー。サントリーホール室内楽アカデミー第3期フェロー。現在、東京藝術大学管弦楽研究部非常勤講師、藝大フィルハーモニア管弦楽団コンサートマスター。

岩村 聡弘 Akihiro Iwamura

2ndヴァイオリン

桐朋音高を経て渡欧、ウィーン市立音楽院にて研修を積み傍ら、ウィーン室内管弦楽団、ウィーン国立音大オーケストラ等、様々なオーケストラでコンサートマスターを務める他、ウィーン現代音楽祭にてソロヴァイオリン奏者としてORF国営放送出演等で好評を博す。現在、様々なオーケストラでゲストコンサートマスターを務める他、クラシックのみならずJAZZライブを自らプロデュースしているストリングアンサンブル等で国内外のアーティストから絶大な信頼を得ている。ブラームス国際コンクール室内楽部門ディプロマ受賞。

須山 暢大 Nobuhiro Suyama

2ndヴァイオリン

東京藝術大学卒業。シオン・ヴァレ国際ヴァイオリンコンクール入賞。サイトウキネンオーケストラ、紀尾井シンフォニエッタ、赤穂・姫路両国際音楽祭プレコンサート等多数出演。日本各地の主要オーケストラにコンサートマスターとして客演した後、2018年4月大阪フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターに就任。

丹羽 洋輔 Yosuke Niwa

2ndヴァイオリン

東京生まれ。7歳よりヴァイオリンを始める。都立芸術高校を経て東京藝術大学にて学ぶ。在学中ウィーンへ留学。ディヒラーコンクールにて入賞。2007年NHK交響楽団に入団。これまでにヴァイオリンを佐藤素子、安井領子、岡山潔、篠崎史紀、エドワード・ツェンコフスキーの各氏に師事。室内合奏団アルクスや弦楽四重奏団大人倶楽部、ピアノトリオ浪漫メンバーとしてオーケストラの傍ら精力的に活動している。

生野 正樹 Masaki Syono

ヴァイオリン

大分県出身。14歳よりヴァイオリンを始め、洗足学園音楽大学を首席で卒業、同大学大学院修了。ザルツブルク=モーツァルト国際室内楽コンクールにて第2位入賞。日本演奏連盟のオーディションに合格、九州交響楽団と共演。2014年にはヴァイオリンソロとしては初の四枚組BOXCD「ノスタルジック・メモリーズ」をWanar Music Japanより発売。現在、山形交響楽団などオーケストラ客演首席、また様々なジャンルのツアー、レコーディング、ソロコンサートを中心に活動中。DINO Quartet(ハーモニーホールふくい専属)メンバー。

萩谷金太郎 Kintaro Hagiya

ヴァイオリン

東京都出身。3歳よりヴァイオリンを、18歳よりヴァイオリンを始める。東京音楽大学卒業、桐朋学園大学院大学修了。京都交響楽団契約団員、NHK交響楽団アカデミーを経て2017年8月より東京都交響楽団ヴァイオリン奏者。PMF2011、パブロカザルス国際音楽祭、アフィニス夏の音楽祭などに参加。ヴァイオリンを藤原浜雄、ヴァイオリンを百武由紀、室内楽を上田晴子、岩崎光、銅銀久弥の各氏に師事。

鈴木大樹 Taiki Suzumura

ヴァイオリン

洗足学園音楽大学を経て同大学院修士課程を修了。第3回横浜国際音楽コンクール弦楽器部門第1位。山手の丘音楽コンクール第1位、横浜ライオンズクラブ賞、Fグループ賞を併せて受賞。第9回東京音楽コンクール第3位等数々のコンクールに入賞している。これまでに宮崎国際音楽祭、プロジェクトQ等のコンサートに出演。ソリストとして新日本フィルと共演。ヴァイオリンを脇野真樹、宮下要、大河内弘の各氏に師事、ヴァイオリンと室内楽を岡田伸夫氏に師事。

門脇大樹 Hiroki Kadowaki

チェロ

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、東京藝術大学音楽学部卒業。日本クラシック音楽コンクール第1位・及びグランプリ。札幌チェロジュニアコンクール優秀賞・及び山藤賞。第5回ビバホールチェロコンクール第3位。読売新人演奏会出演。第74回日本音楽コンクール第3位。ザルツブルク=モーツァルト国際室内楽コンクール第1位。(東京)サイトウキネン若い人のための室内楽セミナー、小沢征爾音楽塾に参加。東京藝術大学卒業後、ロームミュージックファンデーションより奨学金を得て、イタリアへ留学。その後オランダへ渡り、アムステルダム国立音楽院にて研鑽を積み。現在東京音楽大学伴奏科助手。神奈川フィルハーモニー管弦楽団首席奏者。

玉川 克 Masaru Tamagawa

チェロ

5歳より才能教育研究会にてチェロを始める。宇都宮短期大学附属高校音楽科を経て、桐朋学園大学カレッジディプロマコース修了。2005年よりリサイタルを開始。2011年にはパッハの無伴奏組曲全曲を取り上げる。室内楽奏者として非常に多くの演奏会に携わっており近年新たに、出身地である栃木県において本格的な室内楽コンサートを届ける「玉川克の室内楽シリーズ」を主宰、毎年3回のコンサートを開催している。その他、客演首席奏者として国内の主要オーケストラから招聘されるほか、クラシック、ポップスなどジャンルを問わずレコーディングへの参加多数。

田草川亮太 Ryota Takusagawa

チェロ

桐朋女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学卒業、同研究科修了。チェロを井上頼豊、刈田雅治両氏に、室内楽を毛利伯郎、藤井一興両氏に師事。在学中ミクロシュ・ペレーニ氏のマスタークラスを受講する他、桐朋学園チェロアンサンブルでのアメリカ公演に参加。その後ジャパン・チェンバーオーケストラ等にも参加する。現在は「石田組」などの室内楽の他、オーケストラ、レコーディング等の活動をしている。

米長 幸一 Koichi Yonenaga

コントラバス

10歳よりコントラバスを始め、堤俊作氏に師事。桐朋学園大学卒、研究科修了。在学中に池松宏、ゲーリー・カー、ライナー・ツェベリッツの各氏に指導を受ける。2000年日本演奏家協会コンクール弦楽器の部第1位。2001年より神奈川フィルハーモニー管弦楽団首席コントラバス奏者を務める。

精鋭の男たちが生み出す極上の弦楽アンサンブル



塩田 脩
Syu Shioda



戸原 直
Nao Tohara



岩村 聡弘
Akihiro Iwamura



須山 暢大
Nobuhiro Suyama



丹羽 洋輔
Yosuke Niwa



生野 正樹
Masaki Syono



萩谷金太郎
Kintaro Hagiya



鈴木大樹
Taiki Suzumura



門脇大樹
Hiroki Kadowaki



玉川 克
Masaru Tamagawa



田草川亮太
Ryota Takusagawa



米長 幸一
Koichi Yonenaga